

ぬくもりとおもいやりの医療・介護を

新年度になり、当院でも種々の職種に多くの新人を迎え入れる事ができ、心から嬉しく思います。新人は組織を活性化し新たなパワーをもたらします。ですから、新人は遠慮することなく堂々と新人らしく振舞ってください。

さて、2020年4月に新型コロナウイルス対策として緊急事態宣言が発出されてから、早、3年が経過しました。思い返せば、このコロナ対策はそもそも何を目的としていたのか考えてみました。感染を避け、人類を守り人間生活の崩壊を防ぐ事が目的であるように思います。確かに感染のコントロールは多少出来たのでしょうか。しかし、意に反して、多くの人の“気持ち”に、さらには人生に影響を与えたように感じます。緊急事態宣言の当初に発症された方々では、特に誹謗・中傷・閉店・離職・転校や転居等が起きていました。“人命を守るため”との謳い文句で、各種の行事が無くなり人との関係を断ち、赤ちゃん・高齢者や死にゆく人とも逢えず、さらには、亡くなった時でさえ、手を触れる事も禁止されていました。我々、医療者でも“コロナは診ない”のみならず、“発熱患者さんは診ない”事も許されていました。これで良かったのでしょうか？2023年5月5日の読売新聞は、「コロナの先へ、危機の教訓」で「マスクの下 深めた孤独」と題し、21年度の小中学生の不登校・自殺が過去最多を更新したと報道しています。



ウイルスに感染すると、熱が出たり肺炎になったり死亡したり、などなど避けたいこと・嫌なことばかりです。しかし、ウイルスは悪であり完全に排除すべき物でしょうか？「破壊する創造者、ウイルスがヒトを進化させた」（フランク・ライアン著、2014年）によれば「HIV-1（エイズを起こすウイルス、高澤注）などのウイルスも、人間に恐ろしい病気を引き起こすと同時に、進化に大きく関与している可能性が高いということ」と記載され、さらに、「ウイルスの多くは、人間も含め地球上の生物に害を及ぼすのではなく、さまざまな恩恵をもたらし、環境への適応を助けてきた」（[ナショナル ジオグラフィック日本版2021年2月号](#)）。この事実は生き物の進化に対してウイルスの存在が必須である事を示唆します。

SARS-Cov2（新型コロナウイルス）感染が5類へ移行したのを機に、ウイルスと人との関係や、我々の選択した行動が人類の幸せに繋がったかどうかを再度、ゆっくりと考え直してみたいと思っています。

